

7月25日潮寿荘では毎年恒例の夏祭りが開催されました。花火があるので毎年、天気をとても気にしながら当日を迎えるのですが、今年は朝から雨。お屋になつても雨は強くなるばかり。「残念だが今年は中だな」と殆どの人間が思っていた。準備の関係上、中でやるのか、外でやるのか早めに判断しなければならない緊迫した状況だが、最終的な判断は施設長。だが施設長は出かけてる。何度か施設長に電話しようとするが、外でやることを誰よりも望んでいた施設長。情けないが手が震えてボタンが押せない。その時、颯爽と玄関に向かって来る施設長。勢よく施設長に詰め

降つてないよ。それより車奥に止めて来てくれる」と施設長。「そうですよね。これなら外ですよね。ヘッヘッヘッ」話しが終わつた。そんなこともあり、雨も上がつた午後から急ピッチで準備を進め、雨がちらつくことはあつたのですが、何とか外で夏祭りを開始す



7月25日潮寿荘では毎年恒例の夏祭りが開催されました。花火があるので毎年、天気をとても気にしながら当日を迎えるのですが、今年は朝から雨。お屋になつても雨は強くなるばかり。「残念だが今年は中だな」と殆どの人間が思っていた。準備の関係上、中でやるのか、外でやるのか早めに判断しなければならない緊迫した状況だが、最終的な判断は施設長。だが施設長は出かけてる。何度か施設長に電話しようとするが、外でやることを誰よりも望んでいた施設長。情けないが手が震えてボタンが押せない。その時、颯爽と玄関に向かって来る施設長。勢よく施設長に詰め

寄り、勇気を出して「雨がすごい、中でやりましょう。これでは無理です」と声をかける。外を見た。雨はすでに止んでいた。「何言ってんの雨

潮寿荘 がよしり 永川セツ



平成27年8月15日発行
発行：特別養護老人ホーム
潮寿荘
記事：8月担当潮寿荘職員
編集：潮寿荘だより編集委員
題字：永川セツ（91歳）



ることができました。函館市戸井支所長川出様からは心温まるご祝辞を頂き、余興では岩井きみえさんがオーディナル曲と楽しいお話しで盛り上げて下さいました。入居者の歌や職員の踊りを挟みつつ余興のトリは『函館シンフォニックオーケストラ』の皆様。生バンドによる迫力のある臨



場感、人を惹き付けるパフォーマンスを見て下さり、さらに僕も一緒に生バンドで歌うという夢のような機会に巡り会うことができました。そして、お祭りにはやはり屋台。焼き鳥、焼きそば、いなり、わたがし、かき氷、生ピール、ポップコーン、おもちゃくじなど、屋台を担当して下さるボランティアの皆様は毎年、協力して下さっています。こうした皆様のお力添えのおかげもあり今年も夏祭りを終えることができました。人は一人では生きていけないと昔の人はよく言ったもので、潮寿荘の夏祭りも関わって下さるたくさんの方々がいることで成り立つていて改めて噛みしめました。お休みの中、また、お忙しい中夏祭りを支えて下さった全ての方に感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。（シカと接触、車が大破。保険もきかず心も財布もガックリ凹んだうえ「シカ君」と呼ばれた相談員・北川）



